

みしま

町のすがた
(9月1日現在)

人口	男	3,322人(+9)
	女	3,522人(+5)
	計	6,844人(+14)
世帯数		1,569(+4)

()は8月1日との比較

第162号
毎月15日発行
定価1部20円

昭和56年9月15日
発行 新潟県三島郡三島町役場
(025842)代2221
印刷 長岡市(株)中越タイプ社



町一番の長寿夫婦 新保の米持さん一家

「この人と一緒にいることが決ったとき、この人が肺炎だったと思うが病気がなって、式の日が延期になったんです。それ以後は二人とも病気がない病気がはしたことがない」、「そう、そのときは、一人でこちそうの魚を食べてもよかった。結婚してから六十年目を迎えるという新保の米持さん夫婦、リユさん夫婦は、今年そろって元気に米寿の祝いを済ませた町の長寿夫婦のナンバーワンである。「長生きしているといふことが一杯ある。こんげにしてもうて、どれだけ礼をすればいいかのう」、「……」。義理がたい米持さん夫婦と、そのご家族全員に敬老の日の記念写真に納まってもらった。

一般市民へのびる「魔の手」

「長距離トラックの運転手をしていました。深夜、長時間運転するので、疲れから眠気に襲われることがよくありました。仲間から疲労と眠気まじりに効くといわれ、覚せい剤を注射されました。

たしかに、少々無理をしても疲れなし、目がさえるような気がしました。一度だけのつもりが、やがて自分から覚せい剤を求めようになりました。

月に三十万は稼いでいたが、その全部を覚せい剤を買うために使った。たまたま、たまたまになりました。なんとなく腹が立ち、家族に暴力をふるったり、夜中にノコギリで庭の木を切り倒したりしました。

理由もなしにそんな行動に出てしまうのです。家族は今、どこへ行ったか分からない。後悔しています。

一度だけのつもりが常用者に……。好奇心からというのかほとんどですが、一度手を出すともう止められない。というのが覚せい剤体験者のパターンです。「白い粉の恐怖」といわれるゆえんもここにあり。麻薬覚せい剤撲滅運動が全国的に展開されます。

諏訪Bが議長杯獲得 第五回「朝起き野球リーグ」

五月三十一日から始られた第五回「朝起き野球リーグ戦」の議長杯(Aブロック優勝)は諏訪Bチーム(吉崎)が獲得しました。

五月三十一日から八月十三日まで二か月半、雨天を除き毎日午前五時二十分から熱戦が続けられ、Aブロック別下の表のように順位が決まりました。

Aブロック下位二チームと、Bブロック上位二チームによる来季の入れ替え戦も、リーグ終了後にいわれ、七日市、パロツツ(上条)がそろって来季のAリーグ入りを果たしました。

朝起き野球大会勝敗表

〈Aブロック〉

	B	A	富	D	A	若	学	上	志	勝点
諏訪 B		○	○	○	○	●	○	○	○	15
アストロ	●		○	○	○	○	○	○	○	14
富士クラブ	●	●		○	○	○	○	○	○	14
ドルフィン	●	●	●		○	○	△	○	○	12.5
諏訪 A	●	●	●	●		○	○	○	○	12
若宮会	○	○	●	●	●		○	○	○	12
学校町	●	●	●	●	△	●		○	○	11.5
上岩井	●	●	●	●	●	●	●		○	8
志田	●	●	●	●	●	●	●	●		2

〈Bブロック〉

	七	バ	ロ	藤	鳥	逆	上	エ	神	勝点
七日市		○	○	○	○	○	○	○	△	14.5
パロツツ	●		○	△	○	○	○	○	○	14.5
ロータス	●	●		○	○	○	○	○	○	13
藤宮	○	△	○		○	○	○	○	○	11.5
鳥越	○	○	○	○		○	○	○	○	10
逆谷	○	○	○	○	○		○	○	○	10
上横町	○	○	○	○	○	○		○	○	9
エンドレス	○	○	○	○	○	○	○		○	8
神明町	△	○	○	○	○	○	○	○		7.5

○2点(勝) □2点(平戦) △1.5点(引き分け) ●1点(敗) ■0点(不戦敗)

地下水の実態調査

動力揚水井戸対象に

地下水の適正な利用を図るため、「地下水揚水量等実態調査」が十月の中旬から下旬にかけて実施されます。

三島町を含む中越地区六市町村で構成する「中越地区水資源対策協議会」が実施するこの調査は、動力を用いて地下水をくみ上げて

いるすべての井戸を対象とし、各家庭や、事業所に調査員が伺い、調査事項をお聞きします。

調査項目は、用途、一日当たりのくみ上げ量、地下水水位、ポンプの性能などとなっています。あらかじめ、ポンプのプレートに記されている、定格出力、揚水能力や、井戸の深さ、水位などを調べておいてくださると、調査が簡単に済みます。

調査の結果は、より安全な地下水の利用方法の検討や、ムダのない効率的な地下水利用の基本計画の策定資料として役立てられます。ぜひご協力ください。



九月から自校炊飯給食 週三回、おいしいと好評

二学期から町内三校で自校炊飯による米飯給食が週三回ずつ実施されています。

従来、弁当持参による週二回の米飯給食でしたが、米の消費拡大、児童生徒の米飯志向が強まっていることから、それぞれ学校で炊いた暖かい御飯給食を取り入れることになりました。

このため、三校に炊飯のための施設、設備の改善費四百三十万円を今年度予算に計上し、準備を進めてきました。

二週間ほど経過した自校炊飯の評判は、「おいしいので、副食の食べ残しも少なくなった」と好評の

農協組織も協力
今回の米飯給食の実施に伴い、県下の農協で組織する新潟県米穀対策本部から町内三校に「食信」の寄贈を受けました。

九月一日、「おいしいお米を食べて勉強や運動におお一層がんばってください」と、地元農協を通じて贈られた食信は、ステンレス製の二重構造の立派なものです。

今月の保健行事

対象者	内容	と き	と ころ
脳卒中後遺症者	機能回復訓練	9月28日 9:00-12:00 10月9日 13:00-16:00 10月26日 9:00-12:00	保健所
中学校生徒	インフルエンザ予防接種 1回目	10月20日 14:00-15:00	三島町校舎
協野町小学校児童		10月23日 14:00-15:00	三島小
日吉小学校児童		10月28日 14:00-15:00	日吉小
南部保育所園児		10月28日 13:00-13:30	保健センター
協野町保育所園児		10月30日 14:00-15:00	保健センター
52.11-53.5月出生児	3歳児健康診査	10月5日 受付13:30-14:00	
55.7-55.12月出生児	ポリオ生ワクチン 2回目	10月8日 14:00-15:00	
56.1-56.6月出生児		10月8日 14:00-15:00	
55.11-55.12月出生児	9-10か月児健康診査	9月24日 受付13:00-13:30	
56.5-56.6月出生児	3-4か月児健康診査	9月24日 受付13:00-13:30	
56.5-56.8月出生児と希望者	離乳食指導会	10月22日 受付13:00-13:30	老人福祉センター
54.4-54.9月出生児	三種混合予防接種	10月16日 14:00-15:00	保健センター
七日市地区申し込み者	栄養講習会	10月28-29日 9:30-15:00	七日市市民館

秋は体力づくりの季節

運動不足は、単に筋肉の働きを衰えさせるだけでなく、健康そのものに悪影響を及ぼします。日ごろの運動不足を、さわやかなこの秋の季節に取り戻しましょう。できれば親子そろって――。



たばこ消費税は暮らしの中に生かされています。



●たばこは地元で買ひましょ。

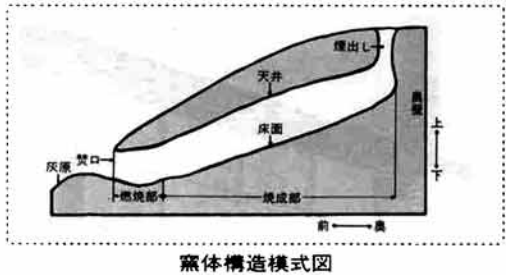
鳥越に須恵器の窯場跡

町史に貴重な一ページ

一人の郷土考古史研究家の小さな発見から、奈良時代前後のものと思われる「須恵器窯場跡」が発掘された。窯（かま）場が見つかったのは、鳥越の見附メリヤスの工場跡から五百ほど山に入った通称一ノ沢と呼ばれる学校のそば。調査の結果は、同時に出土した破片の整理や、歴史的考察を加え、来年度に発刊が予定されている町史に貴重な一ページを加えることとなります。

発掘調査は、八月十八日から三十一日まで、町史編集委員で、前にも千石原遺跡の発掘を手がけられた中村孝三郎先生の指導で進められました。

須恵器というのは、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけて大陸系技術による製法で作られた壺（つば）や甕（かめ）、生活雑器などで、材料に良質の青粘土を用い、薄黒色の特色ある仕上がりとなる。



窯体構造模式図



発掘作業が行われた現場

鳥越の周辺に須恵器の窯場があるのではないかと、この発掘調査の発端は、町史の先史時代を担当されている中村先生が、町内の考古学愛好者からの情報を得ているうち、鳥越の星野洋一さんが収集した石器や矢じりの中に一片の須恵器らしいものが混っているのを見つけたことから始まりです。（以下は昨年の十二月号、四



横井戸とみられる跡

（ページ既載）郷土の考古史に興味をもつ一人の研究者が拾った一片の破片から

大麦の機械化を目指す

県が播種体系検討会

八月二十一日、県下の大部分を参集範囲とする大規模な「大麦機械化播種体系検討会」が、七日市



機械の性能に目をみまめる参集者

県を中心とする行政機関、農業関係機関では、長期化が避けられない水田の転作と、その転作物の栽培技術の確立を急ぐ一方、機械力による大幅な生産性向上に全力を挙げて取り組んでいます。

青と、その融雪水による障害に加え、機械化、栽培技術の立ち遅れが、現在有望とされる大麦の普及に大きなネックとなっているため、メーカーの開発した機械性能と、その体系を検討するため開かれたものです。会場に集まった三百人近い関係者は、耕起、砕土、施肥、播

一挙に千数百年前の歴史がよみがえる——というドラマもこの発掘に秘められていたのです。

発掘された窯場は、自然の斜面を利用した図のような構造のもので、「登り窯」と呼ばれています。

一方、窯場から少し高い比較的平坦な場所には、当時の工人たちが居住していたとみられる跡や、生活用水に使った横井戸、池なども発見され、今では、付近が良質な原料を産する工場地帯であることが推測されています。

小原会長、山田英一両氏農委永年勤続で受彰町農委委員会の小原英一会長と山田英一委員の両氏が、八月二十六日、新潟市で開かれた県農業会議の席上、農業委員としての永年の功績が立派だったと表彰を受けられました。小原氏は勤続十年以上、山田氏は同十五年以上にわたり委員として勤続されています。

調査結果の詳しい内容は、中村先生によって解明されますが、「近郷の史料では見られない、町史にとつて大きな発見です」と、先生はその価値を評価されています。

ほ場整備事業着工

八月十九日、町体育館ではほ場整備事業の起工式が、工事関係者や施工区域の農家など百五十人が出席して行われ、工事のスタートが切られました。



工事の安全と成功を祈願する神事

「県民みんなで実践、正しいルール」をスローガンに、秋の交通安全運動が九月二十一日から九月三十日までの旬間運動として実施されます。

①安全運転の確保、②子供と老人の事故防止、③自転車の安全利用の促進、④暴走族の追放の四つを重点に実施されます。

これから日没が早くなります。特に雨の日の夕暮れどきなどは歩行者、自転車が見えにくくなり大変危険です。できるだけ外出を避けるか、目立つ服装の工夫をしてください。

行政、人権相談が開かれます

☆行政相談 十月十三日、午前十一時～午後四時

☆人権相談 十月二十一日、午前十一時～午後三時

会場は、いずれも総合福祉センターです。行政に対する苦情や意見をお持ちの方、あるいは人権を侵害されて困っているなどという方は、お気軽にこの機会にご相談ください。相談の秘密は固く守られます。

成人病検診結果 詳しく説明します

六月に実施しました成人病検診の結果は、先月の五日から三日間、町体育館ほか二会場で説明会を開き、会場において必要の方にはお知らせしました。しかし、都合でこの説明会においでにならない方もあります。

成人病検診結果 詳しく説明します

検査は、自分のからだの具合を知るためのものですから、いろいろ調べられても、その結果がわからなければ何ともなりません。

検査を受けたら、もっと多くの人たちから結果を知っていただくため、個々に保健婦が説明いたしますので、成人病手帳をお持ちのうえ、役場までお出かけください。必要方にはカルテ、心電図もお貸しします。なお、保健婦が不在のこともありますので、あらかじめ電話等で照会いただければ、むだ足が省けます。

我が家の食卓で最優秀賞

中条の片桐キセさん

「元来、胃が丈夫でない主人の体のことと、子供たちに、小さいうちからうす味に慣れさせようと気を配っています」

八月十八日、新潟市で開かれた県主催の第一回「健康づくり我が家の食卓コンクール」で見事、県



家庭で料理を作る片桐さん

一位となった中条の片桐キセさん（西）にふだんの料理の心構えを聞いた。

当日は、県内各保健所管内ごとに書類審査（作文と一日分の献立表）をパスした十八人が、二時間の制限時間内に朝、昼、夕の三食分を、①使用食品の数、②うす味、③材料の手軽さ、④独創的で季節感に富んでいる——など、十項目にも及ぶ審査基準に従って腕を競ったもの。

料理を作るのが馬にし、神社やお寺に奉納して人々の一助に供した。これは作者の名譽欲を充すことになるので利用され、また神仏に芸能を献納して慰めるとともに、自分も楽しむという法楽思想の考えもあつたので盛んに行われた。

吹き流す 笛の音

涼し 川の端 この句は氣比神社の文化二乙丑年五月吉日奉納額の中から取り出したもので、味わってみると極めて風流で、かどでも時

盛んにつくられた俳句

片桐 英 治

節から涼しさを感じる。由來町内の神社やお寺には必ず奉納額が奉納されていて、中には三枚も四枚も掲げている社寺がある。個人所有のものもあるから、総数は三十枚を上回っている。句会を盛り上げるための工夫がいろいろこらされて、高句会を

奉納句の品さだめに、下掲写真のように、五五の部、七五の部、三光逆順などに評価づけられた。三光とは、日月星のことで、三光逆順といえ、前記の順序を逆にした星月日のことである。このほか、天地人、軸（撰者自

手作りの屋台で盛り上げる

今年の三島まつりは、好天に恵まれ、数々の催しも過去にない盛り上がりを見せました。

十六日、町内を練り歩いたシャ



まつりを盛り上げた屋台(下)と盆踊りの櫓(右)

ギリに続いた屋台は、町商工会青年部員らの手弁当による文字どおり盛り上げました。

この屋台がまつり気分を盛りあげ、沿道の人たちの目をみはらせたことはいまでもありません。

一方、上岩井部でも青壮年グループが、盆踊りの櫓（やぐら）は本物でない踊りが盛り上がりがないと、二か月余りもかかって立派な手作りの櫓を完成させました。

八月十四日、この櫓の御披露目盆踊り大会が開かれ、真新しい櫓を幾重にも開んで、心ゆくまで夏の夜の踊りが練りひろげられてい



発句額



身近な題材を扱った図画展

大好き、町の食生活改善推進員も務める片桐さんには、得意種目。「主人が一番喜んでくれました」と夫婦の息もピッタリ。

三月に大切な実弟を亡くされたばかりの片桐さん、ここで悲しんでいても、実家への墓参の折、発奮したのが応募の動機というから、当の弟さんの応援も大きかったに違いない。

「明るい家庭図画展」モデル地区の上岩井で

「子供たちは、親をよく見てい

て感心しました」と、公民館一杯にはられた作品を案内してくださった上岩井の五十嵐平太郎さんの顔がほころぶ。

部活の役員、青少年指導員、公

民館振興員、それと五十嵐さんらPTA地区委員で相談の結果、先ず、家庭内を見直すことから始めようというところで実現したというこの「明るい家庭図画展」、今年度から二年間、上岩井部活が指定を受けた「明るい家庭づくり運動推進モデル地区」の第一号事業でもある。

家庭の困らん、似顔、畑で働く父母、料理を手伝う自分を描いたものなど題材も実に多彩。作品は村の会合の折、部落民のかつこうの話題ともなり、明るい村づくりにも役立っている。

「ふるさとにいがたの歌」開局五十周年を記念して、誰れもが口ずさめる、県民に親しまれる歌をNHK新潟放送局が募集しています。

応募締め切りは九月三十日、未発表の作品を演奏したカセットテープを同局あて送るとなっていますが、詳しいことは、放送局にお問い合わせください。

NHKが募集

「ふるさとにいがたの歌」